

FD活動報告書

～大学構成員としての教職員個々の意識開発、能力の涵養を目指して～

第14号



令和元年度

聖マリア学院大学FD・SD委員会

CONTENTS

巻頭緒言	: P 2
1. FD・SD 研修会	: P 3～P 5
2. 授業改善の取り組み	: P 6
3. 次期に向けた検討会	: P 7
4. 科学研究費助成事業 申請および獲得状況	: P 8～P 9
編集後記	: P 10

令和元年度（2019年度）巻頭緒言

私は、新しい令和の年になりました今年、広島より赴任し、10年ぶりに福岡の地へ戻りました。

4月より、FDの委員長を拝命し、1年間皆様とともに取り組んでまいりました。この報告書は、皆様と取り組んだ軌跡です。

以前おりました広島において、よく言われていた毛利元就の「3本の矢」を例として出しますと、大学の役割である「教育、研究、社会貢献」の3つの力を束ね、「教員、事務職員、学生」の3本の矢をまとめていけるよう促すことがFD・SD委員会の重要な役割の一つであると思います。

聖マリア学院大学は、平成18年度（2006年）に4年制大学となり、平成22年度（2010年）に大学院（看護学研究科修士課程）を開設、平成25年度（2013年）には専攻科（助産学専攻）を開設し、令和2年（2020年）には、大学として15年目、大学院として11年目を迎えます。

その間、カトリックの愛の精神に基づき、患者さんやその家族、地域の方々に寄り添い、命を守り生活を支える看護職を育成することを目的としてまいりました。

赴任するにあたり、いろいろな関係機関にごあいさつに回ったところ、どの機関でも担当の方々から、本学の健康な人々から病める方々まで包括的な看護の取り組みに感謝していますというお言葉をいただきました。このことは、本学の建学の精神を大切に日々、教員・事務職員の皆様が学生とともに培ってきた財産であると確信しました。今後もこれを真摯に継続することが求められていると思います。

今回、FD・SDの企画を考えるにあたり、これまでの本学のFD・SDの取り組みのプロセスを垣間見ることができました。具体的には、とても熱意がこもったしっかりとした事例を見聞きいたしました。

そこで、改めて、教育の質向上は一人一人の教職員の皆様の知恵、技術、協働の集約であると感じました。

今年度FD・SD委員会では、特に教育の質向上に向けたティーチングポートフォリオ、教員と学生の協働による「とも勉サポーター」の取り組み、今後の大学教育の質転換と教職員力について、学びました。

来年度、本学では委員会の組織改革が行われ、FD・SD委員会は、FDについては、「教育の質向上委員会」に、SDについては、IR室に統合再編される予定です。これまでの取り組みから、教育の質向上を目指し、教職員一人一人の強みや役割を可視化し、自らの役割を遂行できる仕組みづくりを継続して取り組んでいけるよう新委員会にバトンを渡したいと思います。

令和2年3月 眞崎直子

1. FD・SD研修会

【第1回目】

- 日 時：平成31年4月10日 15:30～17:00
- テーマ：「アメリカの医学教育／看護教育」
- 講 師：藤堂省先生 （聖マリア学院大学 寄付講座教授）
添田英津子先生（慶應義塾大学看護医療学部准教授）
- 参加者：本学教職員 37名 （教員 31名／職員 6名）

【第2回目】

- 日 時：令和元年8月22日 15:00～16:30
- テーマ：「教育の質保証に向けた学修支援について」－学生および学外者が参画するFD－
- 報告者： 堤千代 先生 （聖マリア学院大学 教授）
井手悠一郎先生 （聖マリア学院大学 准教授）
石本祥子先生 （聖マリア学院大学 講師）
学生協力員 （聖マリア学院大学 学修支援室）
- コメンテーター：橋口ちどり氏（聖マリア病院副看護部長）
- 参加者：本学教職員 33名 （教員 26名／職員 3名／学生 3名／学外者 1名）



【第3回目】

- 日 時 : 令和元年 8 月 29 日 15 : 00 ~ 16 : 00
- テーマ : 「画像医療の進歩」
- 講 師 : 本田浩 先生 (聖マリア学院大学 寄付講座教授)
- 参加者 : 本学教職員 36 名 (教員 26 名 / 職員 10 名)

【第4回目】

- 日 時 : 令和元年 9 月 4 日 15 : 00 ~ 17 : 00
- テーマ : 「ティーチング・ポートフォリオを作成する」
- 講 師 : 安藤満代 先生 (聖マリア学院大学 教授)
真崎直子 先生 (聖マリア学院大学 教授)
- 参加者 : 本学教職員 34 名 (教員 30 名 / 職員 4 名)



【第5回目】

- 日 時：令和元年9月11日 教職員連絡会議終了後
- テーマ：「アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価」
- 講師：野中岳史 次長（聖マリア学院大学 事務部次長）
- 参加者：本学教職員 52名（教員 37名／職員 15名）

【第6回目】

- 日 時：令和元年11月19日 15：00～16：30
- テーマ：「大学教育の質的転換と教職員力」
- 講師：脇本修自 先生（教育ネットワーク中国 事務局長）
- 参加者：本学教職員 37名（教員 23名／職員 14名）



2. 授業改善の取り組み

【1】 授業公開

本年度は、下記のとおり計7回の授業公開を実施し、延べ48名の参加があった。各回の実施概要は以下のとおり。

日時	公開者	授業科目名・学年	参観者数
7月2日2限	本田浩 教授	臨床病態生理学・研究科	7名
7月3日3限	眞崎直子 教授	保健医療福祉と看護・学部1年生	9名
7月9日2限	藤堂省 教授	生命倫理・研究科	7名
7月30日2限	本田浩 教授	臨床病態生理学・研究科	6名
9月10日3限	本田浩 教授	臨床病態生理学・研究科	6名
11月19日1限	松野史 助教	臨床看護学方法論Ⅱ・学部2年生	10名
11月28日4限	原知子 助教	小児看護学方法論Ⅰ・学部2年生	3名

参観者数合計（延べ人数） 48名

【2】 自主的な講義聴講とリフレクションシートの提出について

今年度も過年度から継続して、各教員に自主的な講義聴講を促し、聴講後のリフレクションシート提出を求める取り組みを実施した。提出状況は以下のとおり。

授業科目名	講義担当者職位	聴講者職位
保健医療福祉と看護	教授	助教 2件
臨床病態生理学	教授	教授 1件 准教授 1件 助教 3件 助手 1件
生命倫理	教授	教授 1件 助手 1件

合計提出件数 10件

3. 次期に向けた検討会

下記のとおり、他委員会と連携し、今後の本学の課題を検討する機会を設けた。

日 時：令和元年 12 月 4 日（水） 15：00～

参加者：教務委員会、学修支援室、FD・SD 委員会の構成員

検討会の開催目的：教育の質保証実質化に向けて、各種委員会等におけるこれまでの活動内容・今後の課題などについて討議し、次期中長期計画策定の一助とする。

議事内容（要旨）：今後の課題・必要とされる取り組みに焦点を当て、以下に議事要旨をまとめる

教務委員会の報告：教務委員会として掲げている重点項目の 2 本柱は「カリキュラムの質的向上」
「臨床教育の質的向上」

① 「カリキュラムの質的向上」

ア) 2022 年度から指定規則改正に伴う新カリキュラムスタートが予定されており、次年度（2020 年度）は、新カリキュラムの検討に注力する

② 「臨床教育の質的向上」

ア) 変化していく病棟に対応しつつ、教育モデル病棟取り組みの継続と、さらなる質的向上を目指す

イ) 臨床スタッフおよび教員の臨床教育力の質保証および向上を目指す（必要なコンピテンシーの検証）

ウ) 実習関連法令（個人情報取り扱いなど）について研修する

学修支援室の報告：① 「とも勉サポーターの取り組みについて」

ア) 今後は効果の測定に視点を置きつつ実施していく必要がある

イ) 意欲の低い学生にどう向き合うか

② 「障がいのある学生への対応について」

ア) 本学におけるガイドラインを定めるにあたり法的な視点も交えた研修が必要（当該学生の情報共有のあり方・有資格者を交えての支援体制構築など）

その他：例えば学修支援室で課題となっていることを教務委員会へ提示し、その解決を図るために FD を実施するなど関連委員会が相互連携し、横断的業務遂行が必要。

4. 科学研究費助成事業 申請及び獲得状況

1. 令和元年度 科学研究費助成事業 採択状況

① 新規採択者一覧：採択者数 4 名（申請者 13 名）

研究種目	研究課題名	採択者名
基盤研究 (C)	看護基礎教育におけるソーシャルスキル獲得のための段階的教育プログラムの開発	石本祥子
基盤研究 (C)	ウガンダ難民定住地における女性を対象とした暴力の実態調査	秦野環
若手研究	多様性をいかに病棟師長のダイバーシティ・マネジメント	近末清美
研究活動 スタート支援	看護学生のインシデントに対する看護教員のかかわりの実態と関連要因	古村沙織

② 継続者一覧： 継続者数 8 名

研究種目	研究課題名	採択者名
基盤研究 (C)	自己イメージに焦点を当てた支援プログラムが中堅前期看護師の看護実践力に及ぼす影響	鶴田明美
基盤研究 (C)	自発性を賦活させる熟練看護師の看護実践を支える暗黙知の解明	小浜さつき
基盤研究 (C)	在宅ホスピスでの患者と家族に対するナラティブ・アプローチのプログラム開発	安藤満代
基盤研究 (C)	若年女性の妊孕性に関する意思決定支援に向けた看護基礎教育プログラムの開発	桃井雅子
基盤研究 (C)	都市型準限界集落のソーシャルキャピタルコーディネーター育成プログラム開発と評価	眞崎直子
若手研究 (B)	倫理教育教材の開発につながる臨床看護師の Moral Residue に関する研究	井手（小森）あき奈
若手研究 (B)	介護老人福祉施設における PD アプローチによる感染対策効果の検討	渋谷暁春
研究活動 スタート支援	男性不妊当事者の求める心理的支援の実態-心理的支援体制の構築を目指して-	井口亜由

③ 研究分担金配分者一覧 15件

研究代表者所属機関	研究種目	研究分担金獲得者名
山梨県立大学	基盤研究 (B)	秦野環
関西医科大学	基盤研究 (B)	安藤満代
関西医科大学	基盤研究 (B)	日高艶子
関西医科大学	基盤研究 (B)	谷多江子
関西医科大学	基盤研究 (B)	井手悠一郎
関西医科大学	基盤研究 (B)	石本祥子
関西医科大学	基盤研究 (B)	小浜さつき
聖路加国際大学	基盤研究 (B)	桃井雅子
聖マリア学院大学	基盤研究 (C)	日高艶子
聖マリア学院大学	基盤研究 (C) ※上記と別課題	日高艶子
熊本大学	基盤研究 (C)	鶴田明美
聖マリア学院大学	基盤研究 (C)	小浜さつき
日本赤十字豊田看護大学	基盤研究 (C)	眞崎直子
日本赤十字広島看護大学	基盤研究 (C)	眞崎直子
福岡県立大学	基盤研究 (C)	眞崎直子

2. 令和2年度科学研究費助成事業 申請状況

申請者数 11名 (申請時の職位)

事業名	職位	申請者数
基盤研究(C) (一般)	教授	1
	准教授	1
	講師	1
	助教	5
	計	8
若手研究	講師	1
	助教	1
	助手	1
	計	3

編集後記

本年度も学内外、多数の皆様方に FD・SD 活動へご協力いただきましたこと、先ずは感謝申し上げます。

報告書の編集を終え、改めて活動内容を振り返ると、取組みの一貫性の観点から、前年度の事業を継続的、発展的に実施する一方で、新たな視点での研修を試みたこと等、その時々での状況や反省点が思い返されます。

年間を通して、或いは其々の催事毎、大学全体としてどれだけの効果があったのか、構成員に対し、どの程度の成果物を提供できたのか……、担当委員会の末席で活動に従事した者として自問するとき、内心忸怩たるものがありますが、結果の数値化や可視化が困難な取組みであるからこそ、啓発的、醸成的に Development の機運を大学内に浸透させていくことの責任を痛感している次第です。

令和 2 年 3 月 石井和弘

聖マリア学院大学 FD・SD 委員会

委員長 眞崎直子

副委員長 石井和弘

委員 日高艶子、安藤満代、井手悠一郎、
小浜さつき、石本祥子、江崎裕紀

FD 活動報告書 第 14 号

発行：2020 年 3 月

編集：聖マリア学院大学 FD・SD 委員会
福岡県久留米市津福本町 422

TEL：0942-35-7271/FAX：0942-34-9125

